

長崎 検定 一級 さん

Vol.31

長崎の魅力

を発信するために

出口

雅昭さん

長崎歴史文化観光検定の最難関を突破した1級ホルダー。
その卓越した識見には、なにやら一言ありそうです。
ざっくばらんに寄稿願いました。

他の合格者のような一言はありませんが、名刺代わりに寄稿させていただきます。

「長崎のことなら大体知っている」つもりであった私にとって、長崎検定受験は、自分の無知を知る良い機会となりました。第1回（平成17年）試験を職場のみんなを受験しようという話になった時、「3級くらいのレベルなら簡単に合格するだろう」と高を括ったことを覚えています。

ところが、テキストをばらばらとめくった途端、その自信は瞬時に吹っ飛んでしまいました。初めて聞く地名、人物、文化財、料理名、しかも漢字さえ読めない。愕然としました。こんなに知らないことが多いとは。テキストと格闘しながら何とか3級・2級に合格したものの何か物足りない。付け焼刃で丸暗記したものは全く身につけていないことを実感していました。

3級・2級と合格すると、自然と欲が出てきました。1級にも挑戦してみようという気になりました。ですが、1級のレベルが段違いに高いことはよくわかっておりましたから、これまでのようなテキストだけの学習では到底合格できない。そこで、趣味のウォーキングの途中で、いろいろな場所へ寄り道して見聞を広めようと思い、寺・神社、墓地・教会、句碑・歌碑、資料館・記念館などの前を通ると、出来る限り足を留め、その歴史や由縁を学ぶよう心がけました。その甲斐あって昨年1級に合格することができ、大変うれしく思っています。

さて、今、長崎は、100年に一度のチャンス

の時期だと言われています。今年10月の長崎がんばらんば国体・大会、世界遺産登録を目指した取り組み、九州新幹線西九州ルートの開通などを控え、経済界や行政、大学などが連携して新しいまちづくりを進めています。しかしながら、一部の有識者だけの取り組みでは、県外の方々が何度も足を運んでくれるような魅力あるまちづくりは成りません。交通インフラやコンベンション施設、ホテルの充実などハード面の整備はもちろん重要ですが、もっと大切なのは、一人でも多くの市民が、長崎の魅力を発信することであり、そのためにはやはり、自分のまちのことを深く知ることが必要です。当たり前のことですが…。

長崎人は、その歴史的県民性故か、PRが下手だとよく言われます。こんなにたくさんさんの魅力が詰まっているにもかかわらず、他県の人にその魅力を十分伝えきっていないような気がします。競争が苦手な性質で、他県のお国自慢に比べるとやや大人しいのではないのでしょうか。

ところで、私の会社では、一昨年の10月から毎月1回、「長崎さるくコースを清掃する」というボランティア活動を実施しています。毎月コースを変え、歩きながら職場のみんなと見聞を広め、かつ、おもてなしの気持ちを含めてゴミを拾っています。今では、他の企業や団体の皆さんも賛同くださり、「長崎ランタンフェスティバル」や「帆船まつり」、「長崎くんち」などのイベント前には、長崎国際観光コンベンション協会や長崎都市経営戦略推進会議事務局の旗振りで、複数のコースを

同時に清掃するという活動に裾野が広がってきました。大変喜ばしいことだと思っています。
この長崎検定受験を通して習得した知識や関係者との交流は、何らかの形で活用しなければならぬと思っています。どのような分野でも同じですが、勉強はあくまで手段であり、その成果は、最終的には人の役に立つ行動に結びつけたいものです。

私の場合は、一企業人、一市民として、この知識を人に伝え、長崎の魅力を発信していきたいと思えます。

先に触れましたが、今年「長崎がんばらんば国体・大会」が開催されます。県外から多くの人が長崎を訪れることになりました。それぞれの市民がそれぞれの立場で、長崎の魅力を発信することを期待したいと思います。その結果、訪れた人がその魅力に感動し、また足を運んでくれることを願っています。



【プロフィール】

1968年長崎生まれ。
九州電力株式会社勤務。
現在、ボランティアや地域貢献活動を推進する部門で地域との協働事業に取り組んでいる。